
ユグドラシル

日影

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ユグドラシル

【コード】

N9355F

【作者名】

日影

【あらすじ】

大きな樹を中心にそこは九つの世界に分かれている。その九つの世界の一つの世界が…今悲鳴を上げている。

第1話 世界樹の声（前書き）

ユグドラシルは北欧神話に出てくる世界樹の名前です。
そしてこれはそのユグドラシルをモチーフにしたオリジナル小説で
す。

第1話 世界樹の声

ユグドラシル。それは世界樹。

ユグドラシル。それは宇宙樹。

ユグドラシル。それは世界を表す。

ユグドラシルには北欧神話にある九つの異なる世界を含んでいる。

それは九つの世界の中心。まさしく全ての世界の中心。

そしてその世界の中心、ユグドラシルを守る者がいた。この世界中の守り人。

森の精霊とその使いのドラゴン。その森の精霊の名前はユマ。

その使いのドラゴンの名前はリアツカ。

彼女達は常にユグドラシルの周りを飛び、そして世界を見つめている。

なぜ彼女達がこの世界樹を守る守護者に選ばれたのか。

それは彼女が異なる世界を含め、全ての森の精霊の長だったから。

それは同時に全ての世界を見ることを許された選ばれし精霊。

彼女はいつものようにドラゴン……リアツカの背に乗り世界樹の周りを飛んでいた。

「ユマ……ユマ……」

自分の名前を呼ぶ声にユマはリアツカを止め、声が聞こえた場所まで近づかせた。

木の幹からひよっこり顔を覗かせたのは一匹のリス。彼の名前はラタトスクと言う。

「ユマ……ユマ……大変……大変」

「何が“大変”なの？」

「危険、危険。世界が危険。叫ぶ。叫ぶ。命叫ぶ」
ラタトスクは九つある世界に情報を伝えるメッセンジャーの役割
をしている。

しかしそのラタトスクの情報はユマには理解できなかった。
ただ分かるのは何かが「危険」という事。

「……またか」

その声にユマが顔をあげると、そこには一羽の大鷹。

「フリースヴェルグ、何か知っているの？」

フリースヴェルグが翼を羽ばたかせればそれは風になる。

その起こした風は世界へ広がっていく。

ユマがそんな世界の風を起こすフリースヴェルグに口を開いた。

「ユマ、こいつは何かが“森を殺した”って言っているんだ」

ひよこつとフリースヴェルグの頭から顔を覗かせたのはヴェズル
フェルニルと呼ばれる小柄な鷹だった。

ヴェズルフェルニルの言葉にユマが目を見開いた。

「お前は気付かなかったかもな。……お前の仲間がお前に知らせない
ように、気づかせないようにしていたから。」

実はここ数百年、何かの手で森の聖域を急激に荒らされている。

お前は知らなくても感じていたのではないか？……仲間の声が聞こえ
づらくなっている事に」

「……………」

フリースヴェルグの言葉にユマは視線を斜め下に向けた。

無言は肯定。彼女はそれを前々から感じていた。ただそれを口にしなかつただけ。

「酷い。酷い。二階層。ミズガルズ」

「ミズガルズ…」

ユグドラシルが繋ぐ世界は上から丁度の幹の上から一階層、二階層、三階層に分かれている。

一番上の階層は神や光の妖精と言った存在が住む世界。

二階層は人間、そして黒き精霊、巨人が住む世界。三階層は凍てつく世界と死の世界。

ユマが呟いたミズカルズ。それは階層で言つと二番目。

さらに細かく言つと人間が住む世界の名前である。

「人間の世界が一番酷いの…?」

第2話 世界樹の声

「人間、森殺した。ユマの仲間。たくさん死んだ。人間。人間。全て人間のせい」

そう言い残してラタトスクは自分の巣穴の中に戻ってしまった。

「人間のせい…。そうか、だからか」

最近ユグドラシルに傷が目立つようになったのは。残されたユマは呟いた。

そしてユマはリアツカに下に降りるよう指示を出す。

「ユマ、どこに行くつもり？」

それを止めたのはヴェズルフエルニル。

「ミズガルズ」

それだけを言い残し、ユマは第二階層、人間世界のミズガルズに向かっていった。

ユグドラシルは世界の中心であると同時に世界そのもの。そして世界の分身であり、命でもある。

九つの世界の全ての植物は全てユグドラシルと繋がっている。

森が、植物が傷つけ、無くなれば無くなるほどユグドラシルに傷がつく。

しかしそれはどれも小さなものの為致命傷にはならない。

しかし注意してほしいのはユグドラシルは一生に一度だけ、自分の遺伝子を分けた種を九つの世界のどこかに落とす。

もしその育った樹が何らかの原因で倒されてしまったら？

…その瞬間ユグドラシルは致命傷を負い、最悪の場合は死に至る。

傷ついたユグドラシルは世界を不安定にさせる。

ユグドラシルが倒れた事は世界の崩壊を意味する。

しかし世界の崩壊は余程の事がなければ起こる事はない。

第一ユグドラシルが自分の子孫を残しているかどうかも分からないのだ。

それはユグドラシルの守護者であるユマもまた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9355f/>

ユグドラシル

2010年10月11日02時20分発行